

資料ふあいる

東日本大震災における機関会員の 安否確認情報

平成 23 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災は、全史料協会会員機関にも大きな被害をもたらした。調査・研究委員会では、この状況をいち早く把握し、会員相互に共有するため、震災の翌日から会員機関等と連絡をとりあった。範囲は東北地方のみならず、北海道、関東甲信越、北陸に及んだ。その結果は、ホームページで逐次公開することになり、次のとおり 9 度にわたって更新を行った。

第 1 報 3 月 12 日／第 2 報 3 月 14 日
第 3 報 3 月 15 日／第 4 報 3 月 17 日
第 5 報 3 月 18 日／第 6 報 3 月 23 日
第 7 報 3 月 25 日／第 8 報 4 月 8 日
第 9 報 4 月 14 日

本稿は、こうした活動記録を後世に残すため、ホームページの記事を編集して再録したものである。原稿作成にあたっては、機関ごとに、記事の更新のあった部分のみを時系列で並べ直した。

ご協力いただいた各機関に改めて御礼申し上げます。

館名	日付	記事
北海道立文書館	3月12日(第1報)	電話が繋がらない。
	3月14日(第2報)	特に被害なし。
札幌市文化資料室	3月12日(第1報)	電話が繋がらない。
	3月14日(第2報)	特に被害なし。
青森県県民生活文化課県史編さんグループ	3月18日(第5報)	特に被害なし。(3月18日確認)
	4月8日(第8報)	特に被害なし。余震の影響で午前中停電。(4月8日午後確認)
青森市総務課市史編さん室	3月18日(第5報)	特に被害なし。(3月18日確認)
	4月8日(第8報)	特に被害なし。(4月8日午後確認)
八戸市立図書館市史編纂室	3月18日(第5報)	編さん室は被害なし。図書館は本がいくつか落下したが復旧、開館。(3月18日確認)
	4月8日(第8報)	特に被害なし。(4月8日午後確認)
仙台市博物館市史編さん室	3月12日(第1報)	電話が繋がらない。
	3月14日(第2報)	博物館内にあり、博物館が堅牢なのと、山手にあるため、職員、資料ともに無事。館外に分散保存した資料については今後確認。交通インフラ被災、そして職員自身も避難所で過ごしている人もいるため、出勤に支障は出ている。電気がとまっているため、ホームページを見ることはできないが、全国の会員の皆さんにこちらの状況を知らせてくれるのはありがたい。(回答：鶴飼さん、昆野さん)
	4月8日(第8報)	4月7日晚の地震では、博物館展示ケースのガラスが2枚破損。また、収蔵庫内については、マップケースの引き出しが飛び出していたが、特に被害はない。展示の方は、先の震災以来閉鎖中。編纂業務は再開している。また、これまでに仙台市博物館や市史編纂室と関係のあった史料所蔵者の所在情報をとりまとめているところである。(4月8日 菅野さんに電話で確認)

	4月14日(第9報)	4月7日晚の地震では、博物館展示ケースのガラスが2枚破損するなどの被害があったが、その後の余震による被害は特にない。(4月13日 菅野さんに電話で確認)
宮城学院資料室	3月12日(第1報)	電話が繋がらない。
	3月14日(第2報)	電話が繋がらない。(話中音)
	3月15日(第3報)	電話が繋がらない。(15日午後、話中音)
	3月17日(第4報)	電話が繋がらない。(17日午前中、話中音)
	3月18日(第5報)	電話が繋がらない。(3月18日午後、話中音)
	3月23日(第6報)	職員は無事だが学生の中には被害にあわれた方もいる模様。現在情報を取集中。同大学の建物は煉瓦を基調とした建物で外部に損傷があるため、耐震診断を経てからでないと中には入れない状態で、立入禁止となっている。そのため内部の状況も不明。耐震診断も、専門家の確保が現段階では難しいため、復旧に時間がかかる見通し。現在は、別の場所にて復旧作業を行っている。電気・ガス・水道がすべて止まっている状態で、大学としては卒業・入学式は行えず、4月一杯は復旧作業にかかる見込み。(3月22日午前、同大学資料室高橋さん)
	4月8日(第8報)	4月8日午前、電話つながらず。
	4月14日(第9報)	特に被害はなかった。ただし、建物の安全確認が完了するまでは中に入れなかったため、通常業務に戻ったのは先週から。(4月13日確認)
宮城県公文書館	3月25日(第7報)	(平成23年度より再入会) 建物は大丈夫だが、ガラス120枚ほどが割れたりヒビが入った。書架の8割が倒壊して、書籍が散乱している状態。現在、復旧作業のため閉館中。しばらく復旧にはかかる見通し。ライフラインは復旧している。(回答：宮城県公文書館 川名さん)
	4月8日(第8報)	先の震災ではガラスが120枚ほどが破損したが、4月7日晚の地震では4～5枚が割れた。また、書架のボルトがはずれた。建物は、耐震対策を施していたこともあり、ひび割れはあるが、柱にも鉄筋にも異常はない。現在開館準備のために、被災資料の修復なども行っているところである。(4月8日午前 次長の大友さんに電話で確認)
	4月14日(第9報)	3月11日の大震災ではガラスが120枚も割れ、4月7日晚の地震ではさらに数枚のガラスが割れた。また、書架を壁に固定しているボルトがはずれたり、書架フレームが大きくゆがんだり、また、建物のクラックがひどくなったりするなどの被害があったが、その後の余震では特に被害はない。現在、再開館に向けての準備をすすめている。先週からガラスの入替え工事が始まった。書架その他の復旧工事については、業者から見積りを取ったが、予算確保については、これからの課題。(4月14日 川名さんに電話で確認)
秋田県公文書館	3月12日(第1報)	電話が繋がらない。
	3月14日(第2報)	書架から簿冊が100冊ほど落下。閲覧業務は11日の地震直後から13日にかけて停止したが、今週からは通常どおりの業務を開始する。
	4月8日(第8報)	4月7日晚の余震では、保存書庫の簿冊が55冊、床に落下したが損傷はない。
能代市史編さん室	3月18日(第5報)	特に被害なし。(3月18日確認)
	4月8日(第8報)	人身、資料、施設とも被害なし。余震の影響で午前中停電。(4月8日午後確認)
横手市史編さん室	3月18日(第5報)	特に被害なし。(3月18日確認)
	4月8日(第8報)	特に被害なし。(4月8日午後確認)
大仙市教育委員会文化財保護課	3月18日(第5報)	特に被害なし。(3月18日確認)
	4月8日(第8報)	特に被害なし。余震の影響で午前中停電。(4月8日午後確認)
福島県歴史資料館	3月12日(第1報)	電話が繋がらない。
	3月14日(第2報)	電話が繋がらない。(この地域への電話が繋がりにくい旨のKDDIの録音メッセージ)

	3月15日(第3報)	職員全員無事。資料床に落下。固定していない棚は、棚ごと傾き、資料落下。古文書は保存箱ごと落下。施設状況は、展示室や執務室のガラスが破損、現在、執務室を建物内の比較的安全な場所に移している。余震と原発の問題もあり、ボランティアはしばらく待たぼうがよい。いま欲しいのは情報と生活必需品、特に水。(3月15日午後、電話で本間さんから確認) 福島県文化センター仮ホームページ http://yamagatuko.sakura.ne.jp/bunka/newpage1.html
	4月8日(第8報)	昨晚(4月7日)の地震での当館建物や資料に対する被害拡大はなかった。当館は震災以来閉館して復旧に努めているが、道路等の復興工事に伴う戦前の地籍関係図面閲覧の強い要望があるため、仮執務室に閲覧場所を設けて対応している。(4月8日午前、電話で職員の本間さんに確認)(ふくしま歴史資料保存ネットワークからのメッセージ) 福島県文化センター仮ホームページ http://yamagatuko.sakura.ne.jp/bunka/newpage1.html
	4月14日(第9報)	余震による資料への被害は出ていない。建物のひびわれが多少進行している。また、建物周囲(駐輪場や庭)のでこぼこがひどくなっている。(4月13日確認) 福島県歴史資料館本間さんインタビュー(4月8日、4月12日追記) ふくしま歴史資料保存ネットワークからのメッセージ(4月8日) 福島県文化センター仮ホームページ http://yamagatuko.sakura.ne.jp/bunka/newpage1.html
茨城県立歴史館	3月12日(第1報)	文書館部門については被害なし。展示部門については、照明の落下等があったため、企画展閉会中。
	3月15日(第3報)	確認したところ、文書館部門は整理済文書が散乱し、保存箱が棚から落下している。展示部門については、照明の落下等があったため、企画展閉会中。
	4月8日(第8報)	特に被害なし。(4月8日午後確認)
	4月14日(第9報)	文書が一部散乱した状態。なお、追加情報として3月11日の地震で、旧水戸農業高等学校本館の玄関部(庇)が落下した。(4月12日確認)
日立市郷土博物館	3月18日(第5報)	建物に一部被害。全体の被害状況を調査中。(3月18日確認)
	4月8日(第8報)	特に被害なし。(4月8日午後確認)
	4月14日(第9報)	特に被害なし。(4月12日確認)
古河市立三和資料館	3月18日(第5報)	少し書棚が倒れた程度。(3月18日確認)
	4月14日(第9報)	特に被害なし。(4月12日確認)
栃木県立文書館	3月12日(第1報)	電話が繋がらない。
	3月14日(第2報)	電話が繋がらない。(この地域への電話がつながりにくい旨のKDDIの録音メッセージ)
	3月15日(第3報)	利用者、職員無事。ごく一部の資料が床に落下。震災時、2名の職員が東北出張中であり、交通が混乱する中、帰任が遅れた。
	4月14日(第9報)	特に被害なし。(4月12日確認)
芳賀町総合情報館	3月12日(第1報)	壁に亀裂入った。エアタイトの展示ケースガラスにひび。土器の一部破損。図書・視聴覚資料の落下(7割程度)。(職員からの情報)。
	4月14日(第9報)	特に被害なし。(4月12日確認)
小山市文書館	3月12日(第1報)	石蔵の瓦一部落下。書籍落下。外の石塀の一部崩れる。
	4月14日(第9報)	特に被害なし。(4月12日確認)
群馬県立文書館	3月12日(第1報)	一部資料の落下。外壁にひびが入る。
埼玉県立文書館	3月12日(第1報)	棚の一部倒れ、書籍落下、散乱。
所沢市生涯学習推進センター	3月12日(第1報)	雑誌類落下、展示物一部転倒。キャビネットの引き出しの飛び出し。
戸田市立郷土博物館	3月12日(第1報)	耐震補強していない棚が倒れた。土器が一部破損。

千葉県文書館	3月12日(第1報)	電話が繋がらない。
	3月14日(第2報)	基本的にほとんど被害はない。交通状況から職員の通勤に影響はあるが、開館は通常どおり。
	4月14日(第9報)	電動書庫が動かなくなったが大丈夫。(4月12日確認)
浦安市郷土博物館	3月12日(第1報)	電話が繋がらない。
	3月14日(第2報)	電話が繋がらない。(この地域への電話が繋がりにくい旨のKDDIの録音メッセージ)
	3月15日(第3報)	利用者、職員、施設に特段の被害なし。(3月15日午後確認)
	3月17日(第4報)	電話が繋がらない。(この地域への電話が繋がりにくい旨のKDDIの録音メッセージ)
	4月14日(第9報)	3月11日の地震では館内の資料は大丈夫だったが、一部屋外展示に被害が出た。(尾上氏)(4月12日確認)
成田市立図書館	3月12日(第1報)	電話が繋がらない。
	3月14日(第2報)	電話が繋がらない。(この地域への電話が繋がりにくい旨のKDDIの録音メッセージ)
	3月15日(第3報)	職員無事。資料の棚がこわれ、中の資料は破損している模様。(3月15日午後確認)
	3月17日(第4報)	電話が繋がらない。(この地域への電話が繋がりにくい旨のKDDIの録音メッセージ)
	4月14日(第9報)	3月11日の地震では本が相当数棚から落ちた。4月12日の今朝の地震では、分館で数百冊落下した。(関谷氏)(4月12日確認)
松戸市立博物館	3月12日(第1報)	被害なし。
東京都公文書館	3月14日(第2報)	窓ガラスにひび。書庫内で資料が散乱。2、3日中に詳細が判明すると思う。通常どおり開館するが、原本資料については出納できないかもしれず、その場合はマイクロやデジタル化の複製物で対応する見通し。
板橋区公文書館	3月23日(第6報)	書架からの資料の落下、地図収納用のスチール棚の転倒落下、マイクロフィルム収納用スチール棚の落下とそれに伴う16ミリフィルム保存用の金属缶の破損を確認。業務を行っていた職員は無事。現状復帰作業は13日に終了、照明等の電力消費を最低限にした状態で通常通り開館している。(3月19日確認)
葛飾区郷土と天文の博物館	3月12日(第1報)	本館被害なし。分館の壁一部崩落。
江東区総務部総務課	3月17日(第4報)	(3月17日午前確認) 文書が床に落下。電動書架の損壊。職員にケガはない。
小平市立中央図書館	3月12日(第1報)	被害なし。
豊島区立郷土資料館	3月12日(第1報)	収蔵庫で貴重書の収納箱が落下。展示物の一部(村絵図)が落下。
世田谷区立郷土資料館	3月12日(第1報)	収蔵庫の一部破損。本の落下。
品川区立品川歴史館	3月12日(第1報)	被害なし。
渋沢史料館	3月12日(第1報)	被害なし。
神奈川県立公文書館	3月12日(第1報)	被害なし。
神奈川県立図書館	3月12日(第1報)	本館および新館で書架より書籍落下。(復旧済み)
横浜開港資料館	3月12日(第1報)	地震直後にエレベーター停止。庭の煉瓦床にひび入った。
寒川文書館	3月12日(第1報)	収蔵庫の棚のひとつがまがった。
新潟県文書館	3月12日(第1報)	被害なし。
新潟市歴史文化課歴史資料整備室	4月8日(第8報)	被害なし。(3月29日確認)
福井県文書館	3月12日(第1報)	被害なし。
石川県立図書館	3月12日(第1報)	被害なし。
金沢市立玉川図書館近世資料館	3月12日(第1報)	被害なし。
長野県立歴史館	3月12日(第1報)	被害なし。
松本市文書館	3月12日(第1報)	被害なし。